
ポケモン不思議のダンジョン 解体新所

猪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ポケモン不思議のダンジョン 解体新所

【Zコード】

N9720Z

【作者名】

猪

【あらすじ】

小説「ポケモン不思議のダンジョン～葉の救助隊～」、「ポケモン不思議のダンジョン～雲の探検隊～」の設定集です。

どうもこんにちは、ポケダン!一次創作小説「ポケモン不思議のダンジョン」葉の救助隊」と、「ポケモン不思議のダンジョン(以下省略)→零の探検隊」作者の猪です。ここでは、その二つの小説の登場人物、場所、その他諸々の設定の紹介をしていこうと思います。

最初に、ここで登場人物を紹介します。
主に僕と四人のポケモン、たまにその他のゲストを交えてお送りします。
ではその四人に……お~い、みんな自己紹介して~。

ヨウ「ヨウだ。」

ベウ「オレはベウ。よろしくね!」

シズク「僕はシズク。」

エン「ボクはエン。よろしく!」

まあ、四人と言われた時点で彼らだと感づいた人もいるでしょう(笑)

シズク「君達に会うのも初めてだね。僕はシズク。よろしくね、ヨウ、ベウ。」

ヨウ「その言い方からすると、俺達のことを知つてたのか?」

エン「うん。なんでも、作者のもう一つの小説で頑張つてるって話

だね。」

ベウ「頑張つてゐるつていつても、作者は今キミ達の小説で手が離せないからつて、こっちの小説サボつてるけどね（汗）」

さ、サボつてるとは人聞きの悪い…（汗）

まあとにかく、四人が打ち解けたところで、次々と説明に入つていくこととしましょう。

ここから説明のスタイルが変わります。ご了承ください。

- ・“登場人物解説”について

ここでは、小説中に登場した人物（主にポケモン）の名前、説明、年齢、性格、その他補足について詳しく紹介します。

まず、名前についての説明です。

登場人物の名前は、大きく分けてそのポケモンに関連がある漢字1～2文字でつけられている場合と、そのポケモンの種族名、タイプ、特徴にちなんだカタカナでつけられている場合があります。分けかたの基準としては、基本的に漢字で名前がつけられているポケモンは、ストーリーに深く関係しています（一部例外あり）。

次に年齢についての説明です。

年齢は基本的に「その人間あるいはポケモンが何年生きているか」を基準としております。そのため、ポケモンと人間の年齢に誤差は生じないものとします。つまり、「人間の歳が（ポケモン名）の歳にあたる」のようなことにはならず、「人間の二十歳＝ポケモンの二十歳」ということになります。

ここで例として、僕の紹介文を載せましょう。

この小説の作者で、本名 猪 介（伏せさせてもらいます）。17歳。おだやかで寛容な性格。何事も平和的に解決しようとし、他者を責めることを嫌う。反面口が悪く、悪気がなくとも何気ない一言で「こざーじ」を起こしてしまうことがあります。本人もその事については悩みぎみ。また、比較的楽天的で、嫌なことや辛いことがあってもすぐに忘れることができ、あまり根に持たない。ただし本人は、「のどもと過ぎれば熱を忘れる」タイプで、反省があまり見られないのが短所。

とある工業高校の建築科に通っている。しかし、肝心の建築に関する専門知識や技術はイマイチで、本人はどうちらかといえば、基本科目の国語に自信があるようだ。

ヨウ「気持ち悪いくらいに自分のこと書いたな。（笑）」

シズク「うん。聞いて軽く吐き気がした。（笑）」

ヨウとシズクがなんか言つてますが無視して……大体要領はつかめましたか？こんな感じで、登場人物の紹介をしていこうと思します。

- ・“プレイスデータ”について

ここでは、小説中に出てきた地域やダンジョンについて説明します。僕の小説内では、所々ゲームと設定が変わっている点があり、主にその点について説明していきます。

また、その場所で起きた出来事についてのおさらいなどもします。あとは……特に説明することはありませんね（笑）

べウ「登場人物解説の説明があの長さなのに……ちょっとアンバラ
ンスじゃない？」

世の中、調和がとれているからといってもんじやないよ

エン「かつこここ」と言つたつもりだらうナビ、ただの屁理屈だよ
それ…（汗）

・ “その他設定、いぼれ話”について
ここでは、上記のことには関係なことに関する設定、またはいぼ
れ話や裏話をします。まあ要するに、僕と四人の無駄話だと思つて
ください（笑）

ミウ「そんなコーナー設ける必要あるのか？（汗）」

ベウ「オレ達だって忙しいんだから、無駄話なんてしてられないよ。

」

大丈夫。だつてこの小説と「葉の救助隊」は別物だから

シズク「変なところで裏話……（汗）」

エン「はあ～、ボクらって苦労人だな……。」

これで説明はおしまいです。要領をつかんでくださった方も、そうでない方も、読んでみれば分かると思います。

それでは皆さん、また本編で～～～

「葉の救助隊」より ヨウとベウ

「葉の救助隊」の主人公ヨウと、そのパートナーであるベウについての説明です。

まずはヨウから説明していきます。

ヨウ「変なこと書くなよ?」

・ヨウ

突然キモリになつて、記憶もほとんど無い人間の男の子で、本名は木陰葉。コカゲヨウ 16歳。

無口で無愛想かつ少々ひねくれている。その性格ゆえ、皮肉を言って反感を買うことが多い。反面、義理堅く他者を思いやる気持ちが強い。そのため、助けてくれた上に住居の提供までしてくれたベウに対して暴言は一切言わなくなつたり、洞窟内でベウを待たせて危険に近づかせないようにしようとした。また、決断力と行動力があり、瞬時の判断を要する場面でもすぐに行動に移すことができる。ただし、彼自身は俗に言う「考える前に行動する」タイプで、時にその後先考えない言動が、自爆や致命的なミスを招くことも。

最初ベウに対しては、頼りないという思いやなれなれしいという思いなど、悪い印象しか持つていなかつたが、前述の通り助けてもらつた上にすみかまで借してもらつたことにより、彼の良い部分に気付き始め、少なからず信頼を寄せ始めているようだ。また、記憶がほとんど無いものの、ポケモンに関してはかなり詳しく、本人はそれを人間だったころの記憶の一部ではないかと言つている。

大体こんな感じかな?じゃあ、次はベウ。

ベウ「うんーー！」

・ベウ

ワニーノコの少年で、15歳。かなりの小心者で、特に暗いところが怖いらしく、一人ではためらって救助隊の登録さえもできなかつた上、洞窟内では怖くて終始ヨウにくつづいて行動していた。しかし、心優しく明るい性格で、ヨウにタダですみかを貸したり、一緒に救助隊登録してくれると聞いて、子供のように喜んだりした。また、初対面のヨウとも気軽に話したり、前述の洞窟内での行動からも分かるように、良く言えば人懐っこい、悪く言えばなれなれしくもあるようだ。

ヨウに対しても絶大な信頼を寄せているが、それは持ち前の人懐っこさだけではなく、ヨウには本人にも分からぬ何かを感じているからのようだ。また、彼の背中にはかなり深い切り裂かれたような古傷があり、その大きさから、彼が過去に何か重大な事件に巻き込まれた形跡がうかがい知れる。

シズク「ベウの方がヨウより年下なんだ。」

エン「ちなみに、何か意味はあるの？」

うん一応。ベウのヨウに対する信頼は、同じ年の友達に対してとうよりは、兄を慕う弟というような感じにしたかったから。

エン「なにそれ……（汗）」

「葉の救助隊」より 小さな森

名も無き「小さな森」。主人公とパートナーが最初に冒険するダンジョンで、そのため出現する敵ポケモンもレベルが低く戦いやすい。小説では、ヨウとベウの出会いの場所。ゲームでは、バタフリーがいたのは洞窟の外で、彼女からの依頼によって最初の冒険が始まるが、小説ではその前にキャラピーの泣き声を聞いて、二人は行動を起こしていた。バタフリーが登場するのは洞窟内。そしてオレンの実をベウに渡した。また、ゲームではもらえるお礼の品を、小説では、何ももらわなかつた。

ベウ「お礼の品…欲しかつたな～～～。」

バタフリーからは既にオレンの実をもらつてたから、これ以上何かもらつのはどうかと思つたから。

ヨウ「ふん、そんな設定いらなかつたのに……」

そのオレンの実で助かつたのは、誰だつたっけ？（ニヤリ）

ヨウ「う…………（汗）」

名前の由来+プチ誕生秘話

ヨウ「ところで作者、俺達の名前はどんな風に決めたんだ？」

シズク「あと、それぞれの名前の意味も知りたいな。ベウだけはどうしても思いつかなくて。」

よくぞ聞いてくれた、ヨウ、シズク！！

ちょうどそのことについては近いついで話そうと思つてたところなんだよ。

この小説のちょっとした誕生秘話も交えて話したいから、名前が決まった順で紹介していくね。

ベウ「誕生秘話？」

エン「へー、おもしろそう。」

まず、一番最初に決まったのは……シズク、君だ。

シズク「僕？」

君の名前はぶっちゃけ、この小説連載前から決まっていたよ。

一同「ええ~~~~~！？」

ここからじしまらくは誕生秘話なんだけど、本来、小説「ポケモン不思議のダンジョン～零の探検隊～」は、マンガとして描き始めたものだったんだよ。マンガといっても、娯楽目的だったから、道具も

まともにそろえないで市販のノートに定規で枠線引いて描いた、本当に粗末なものなんだけれどね。（笑）

ヨウ「そりやひでえな。（笑）」

でも問題はそこではなく、僕の壊滅的な画力の低さにあつたのだ。

（苦笑）

シズク「要するに、絵がド下手なんだね。（笑）」

自分の画力の低さに失望した僕は、第1話が終わる間もなく「零の探検隊」を打ち切ってしまったわけだ（正確にはエンドにあたるヒノアラシがギルド前にある格子を踏もうとするところで、真正面から見たヒノアラシを描けずに挫折した（笑））。しかし、それから1年半後……

エン「い、1年半後！？」

高2の半分過ぎたところでようやくケータイを買った僕は、「この「小説家になろう」というページの「にじファン」の存在を知ったのだ。

ベウ「ケータイ買うの遅くない？（汗）」

僕のクラスではケータイを休み時間に使って取り上げられる人が多かったから、それまでケータイには、「災厄の種」っていうイメージしかなかつたもんで。（笑）

そしてみぞれ雪さんが執筆するポケダン一次創作小説、「絆の冒険記」を読んで心打たれた僕は、小説執筆を志し、そして生まれたのが、「葉の救助隊」と「雲の探検隊」というわけ。

シズク「みぞれ雪さんって、たしか作者がリスペクトする小説家だよね?」

ミウ「なるほど、小説なら画力の低さなんて関係無いからな。」

ベウ「でも、今の話じゃ「葉の救助隊」は関係無いない?」

うん。だって「葉の救助隊」に関しては、救助隊シリーズを書きたかったから書いただけだもん。

ミウ「なんだ、そのついでに書いた的な言い方は……(汗)」

……とまあ、長々と話してしまったが、これが誕生秘話。
じゃあ次から、名前の由来にいくよ。

まず、僕は名前を決める前に、どのポケモンにするか、どんな性格にするかを順に決める。シズクはマンガに描いていたくらいだから、その3つは決まっていたも同然で、あとは苗字を決めるだけ(マンガでは苗字が無かった)つていう感じだったんだ。

シズクの本名は穿 雪。^{ウガチシズク}あることわざからきてるんだけど、この時点でカンが良ければ気付くかな?

ミウ「雪……穿つ……」

ちなみに雪には、「雨垂れ」って意味があるよ。

シズク「なるほど、「雨垂れ石を穿つ」……か。」

ご名答!…そんな感じで、シズクの名前が決まったわけ。
次に決まったのは……ミウだ。

ヨウ「俺か。」

君の名前は救助隊シリーズを書こうと思つてから、すぐに思い付いたよ（前述の手順はちゃんと踏んだ）。

そして苗字だけど、君の苗字には、葉という字を見て真っ先に思い付くものを選んだ。

ヨウ「……で、真っ先に思い付いたのが「木陰」だったってわけか。」

そう、そういうこと。そんなわけで、君の名前は木陰 葉に決まつたってわけ。

エン「なんか、シズクと比べたら単純な気が……（汗）」

まあ、そうかもしれないね。（汗）
ところで、次は君の番だよ。

エン「ボク？」

残った二人がそれぞれのパートナーだから、苗字が無いのでここからは漢字にしたらどんな字になるかの説明も交えるよ。
まずエンは、言うまでもなく漢字にすると“炎”となる。
エンの場合問題だったのは、あまりにも安直すぎるから、他の小説の登場人物と名前がかぶらないかという心配だつたんだ。

シズク「何それ……（汗）」

でも、他にいい漢字が思いつかないし、漢和辞典を調べてもイマイ

チだしだで、思こせつてHンに元じめやつたわけ。

Hン「なんか、三ウとボクがやたらと女直ぢやない?」(汗) 「

三ウ「ああ、俺も思ひ。」

まあまあ.....^—^;

.....で、一番最後に決まって、なおかつ一番迷つたのは..... (

チラツ)

ベウ「オ、オレ!?

君の場合、漢字にするとあまりにもマイナーで変換で出でこないから、下に書くと.....

水水
こんな字

三ウ「なんだ、この漢字ー?」

シズク「こんな漢字見たこと無こ..... (汗) 」

まあつまり、「森」つてこう字の木を全部水に変えたような字なんだけじね。

この字は「べ三ウ」とも読むんだけど、響き的に気に入った「べウ」の方を選んだんだ。この字は、漢和辞典と2時間くらいにらめつこした末に見つけた漢字なんだ。

ベウ「2時間つて..... (汗) 」

でも、この字を選んでからあることに気が付いたんだけど、「ベウ

つていう漢字には「大きな潮」という意味があるんだけれど、それはつまり、「雲」つていう字とは対称の字になるんだ。

Hン「何その変な関連性……（汗）」

……というわけで、主人公とそのパートナーのそれぞれの名前の由来とプチ誕生秘話を終わります。なんだかマンネリ化した本文でしたが、読んでくださってありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9720z/>

ポケモン不思議のダンジョン 解体新所

2011年12月30日22時49分発行